



大阪桐蔭高等学校

100号特別記念号

発行人 監督 天野泰男

女子サッカー部報告

毎日ブログ更新!最新情報はこちらで!!
<http://toin.sakura.ne.jp/>

奪還 ~最高のチームで最高の結果を~

2018年10月1日 NO.100

第47回関西女子選手権大会兼第40回皇后杯関西予選

皇后杯9年ぶり2度目の出場

準決勝でコノミヤスペランツァ高槻を破る

女子サッカーで最も権威のある大会「第40回皇后杯 JFA 日本女子選手権大会」に9年ぶり2度目の出場を果たした。8月26日からJ-GREEN 堺ほかで行われた関西予選1回戦で海南FC SHOUT(和歌山1位)と対戦、先制されるも逆転勝ちし2回戦に進出した。2回戦はなでしこリーグ3部に当たるチャレンジリーグ所属の古豪コノミヤスペランツァ高槻に挑んだ。2011年に皇后杯関西大会準々決勝で対戦し0-0PK10-11で敗れて以来の挑戦で、勝てば全国が決まる重要な試合となった。2点を先制し1点を返されたものの守備が良く踏ん張り見事勝利した。この結果関西でベスト4以上に与えられる全国出場を手にした。準決勝は武庫川女子大学(兵庫3位)に敗れ、さらに3位決定戦では滋賀聖泉大学(滋賀1位)に敗れたが堂々の出場となる。

◇準決勝(9月12日、南津守運動公園)40分
ハーフ(カッコ内は前半のスコア)
大阪桐蔭 2-1(2-1)コノミヤスペランツァ高槻
【得失点】10分和田、18分中尾、25分失点(高槻)

2011年に対戦した時は高校選手権準優勝チームだった。当時なでしこリーグ2部の高槻に健闘し0-0に持ち込みPK戦までもつれたものの惜しくも敗れた。今年高槻はなでしこリーグ3部に当たるチャレンジリーグに所属、前期のWEST大会では6チーム中6位と苦戦していた。EASTの下位と争う9-12位決定戦では上位に入り下部リーグとの入替戦を免れていた。

前半開始から攻撃的に仕掛けた。チャンスは前半10分に訪れた。高田が蹴った右コーナーキックを大田が折り返すとタイミングよく入ってきた和田が合わせ先制した。さらに18分右サイドからのフリーキックを瀧口が頭で合わせ流れたところを山元が走り込みシュート、高槻キーパーがはじいたボールがバーに当たりこぼれを中尾が決めた。格下高校生に負けるわけにいかない高槻は攻撃に力を割いてきた。その効果はすぐに表れ25分サイドスローインから対応が甘くなるとミドルを決められ1点差に迫られた。

後半になると高槻は同点に追いつくためにメンバー入れパワーを高めてきた。しかし大阪桐蔭は全員が体を張って守り後半40分間を耐えた。全国大会は2009年に関西大会決勝で

日ノ本に敗れたものの第2代表で出場、1回戦でなでしこリーグ2部の伊賀FCに0-2で敗れて以来2度目の出場となった。

◇1回戦(9月2日、奈良フットボールセンター)40分ハーフ
大阪桐蔭 3-1(0-0)海南 SHOUT(和歌山1位)

【得失点】56分失点(和歌山齋藤:大阪桐蔭出身1期生)、62分松井、79分小川、80分中尾

今年の目標の一つである皇后杯出場。大切な1回戦が行われた。相手は海南SHOUTで2015年に行われた和歌山国体で強化されたチームで大阪桐蔭女子サッカー部1期生の齊藤玲奈さんと六車美紀さんが所属する強豪である。開始から攻撃的に試合を進めるが巧みな守備で対応されなかなかゴールを奪うことができない。トップ六車選手のキープからチャンスを作られる場面も見られた。前半は無得点で折り返し後半に入っても攻撃を緩めることはなかった。しかしシュートに正確性を欠きチャンスを決められない。逆に16分カウンターから警戒していた齋藤選手に決められリードを許すことになった。選手を変えて変化をつけようやく22分右サイド小川の突破から途中出場の松井が頭で決め同点。さらに終了間際の39分、杉山の突破からチャンスを作り右サイド小川のドリブルシュートで逆転に成功した。ロスタイムにも中尾が決めようやく突き放した。

◇準決勝(9月17日、神戸レディースフットボールセンター)45分ハーフ

大阪桐蔭 1-2(1-1)武庫川女子大学
【得失点】15分瀧口、33分武庫川女子大学田中:大阪桐蔭高校卒業)、62分失点

大商学園を破った武庫川女子大学と対戦となった。武庫川女子大学は大阪桐蔭出身の京井、田中が先発出場、攻守のバランスがとれた良いチーム。この試合も積極的に攻めた。15分に中央突破から瀧口が目の覚めるような見事なミドルシュートを決め先制したが、33分右サイドの突破から武庫川女子大田中に決められ追いつかれた。後半もチャンスを作るが決められず逆に17分に左サイドから崩され失点、残りの時間同点に追いつくために攻撃したが、追いつくことができなかった。

◇3位決定戦(9月24日、J-GREEN 堺 S15)45分ハーフ。延長10分ハーフ

大阪桐蔭 0-2(0-0)延長0-2(0-0)滋賀聖泉大学(滋賀1位)
【得失点】102分失点、108分失点

3位で終え表彰状を受け取りたい意気込みで臨んだ。この日も攻撃的に試合を進めたが得点を挙げる事ができず、延長後半自分たちのミスから失点する悪い流れで敗れた。

関西 Liga は 13 位

◇13位決定リーグ(8月20日、播磨光都)30分ハーフ。

大阪桐蔭 1-0(0-0)大阪借星高校
【得失点】55分延川

◇13位決定リーグ(8月20日、播磨光都)30分ハーフ。

大阪桐蔭 3-1(3-0)神戸親和女子大学
【得失点】1分山元、17分小川、29分山元、48分失点

関西 Liga は8月20日播磨光都サッカー場で順位決定リーグが行われ大阪桐蔭高校は大阪借星と神戸親和大学に勝ち13位となった。

エスパルスカップ6位

8月6日から行われた第8回エスパルスカップは台風の影響で日程が短縮され6日に予選リーグが、7日、8日に決勝トーナメントが行われた。



大阪桐蔭高等学校

100号特別記念号

発行人 監督 天野泰男

女子サッカー部報告

毎日ブログ更新!最新情報!はこちらで!!
<http://toin.sakura.ne.jp/>

奪還 ~最高のチームで最高の結果を~

2018年10月1日 NO.100

〈予選リーグ〉

- 大阪桐蔭 1-0 神戸弘陵
 - 大阪桐蔭 2-0 伊勢崎清明
 - 大阪桐蔭 1-1 大和
 - 大阪桐蔭 2-1 桐陽高校
- 〈決勝トーナメント〉

- 1回戦
- 大阪桐蔭 0-0PK1-2 南陵
- 5位決定トーナメント1回戦
- 大阪桐蔭 2-2PK 4-3 湘南
- 大阪桐蔭 0-1 広島ユース

ウーマンスーパーリーグ

U-18 Women's Super League2018は8月9日から常葉橋グリーンフィールドほかで行われ、大阪桐蔭高校は浦和レッズ、日テレ・メニーナ、藤枝順心高、常葉橋高と対戦した。全国の強豪チームと対戦できるこの大会は2013年から行われている。2011年まで全日本女子ユース選手権があり高校チームとクラブチームが競い日本一を決める大会があった。インターハイに女子サッカーが参加し、高校選手権が冬に開催されたため高校とクラブが戦う大会がなくなってしまったが、強豪チームの指導者は高校、クラブがお互いに競い合う環境を作ろうとこの大会を設立した。

スピードと激しさの学校、質の高いクラブがぶつかり合う試合はどれも非常に面白い。

<http://www.footballers.jp/wsl/schedule.html>

◇第3節(8月11日、常葉橋グリーンフィールド)40分ハーフ

大阪桐蔭 3-0(0-0)常葉橋高校

【得失点】57 山元、59 分小川、81 分浅利

◇第4節(8月10日、常葉橋グリーンフィールド)40分ハーフ

大阪桐蔭 1-1(0-0)日テレ・メニーナ

【得失点】50 分松井、81 分失点(日テレ坂部)

◇第5節(8月10日、藤枝順心グラウンド)40分ハーフ

大阪桐蔭 3-4(1-1)藤枝順心

【得失点】15 分小川、23 分失点(藤枝池口)、47 分失点(藤枝金子)、69 分失点(藤枝谷)、71 分樋口、72 分中尾、76 分失点(藤枝野嶋)

◇第7節(8月9日、常葉橋グリーンフィールド)40分ハーフ

大阪桐蔭 1-2(0-1)浦和レッズ

【得失点】失点 40+3 分(浦和島田)、失点 52 分(浦和一法師)、61 分小川



今年の夏もイタリア人コーチを招いて講習会を行った。8月13日にグラウンドに現れたステファノ・バルドニ氏はヨーロッパ連盟 A ライセンスを持ちイタリアサッカー協会指導者インストラクターを務めるなど豊富な経験を持つ。カウンターアタックを磨くトレーニングを行った。

100号発行に寄せて

記念すべき第1号は2007年5月14日に発行した。書き出しは「大阪桐蔭女子サッカー部は4月29日から5月13日まで大阪府で行われた平成19年度大阪高校春季サッカー大会〈女子の部〉に参加し決勝で合同Aチームを破り初優勝を飾った。」

〈発行のきっかけ〉

11年前に2年間在籍した株式会社クリムゾンフットボールクラブ(現在は楽天ヴィッセル神戸株式会社)を辞めて大阪桐蔭にやってきた。なでしこリーグ1部(当時名称は日本女子サッカーリーグ)田崎神戸レディースを指導した経験を買われて大阪桐蔭女子サッカー部監督に就任した。男子サッカー監督の永野さんが選手を集め、安田コーチが1年前に来て土台を作ってくれていた。

当時はまだ女子サッカーが全くメジャーでなかった。ちょうど同じ年に大商学園が立ち上げた。この二つの学校は先見の明があった。大阪には女子サッカーを強化する私学の高校はなかったからだ。学校内の人にも、また一般の人にも情報がない時代に少しでも女子サッカーのことを知ってもらうにはこのようなニュースを発行することが良いと考えたわけである。神戸フットボールクラブで働いていた時、このような新聞を作っていたからそれほど面倒とは思わなかったし、何より

今の数倍時間があった。

〈創部のころ〉

就任してすぐの4月から全国大会の予選が始まり簡単に全国大会に行った。兵庫県の日ノ本学園は別格で断然強かった。しかしあとは大阪桐蔭と大商学園が上位を争っているくらいで、すぐに関西の上位に行けた。「簡単にいけるんや」と思っていたら、次の年は大阪府予選で大商学園に敗れあつけなく夢が破れた。

初めて出場した2007年の全国高校選手権、グループリーグ第1戦の相手は埼玉栄高校だった。田崎ペレ監督時代選手を紹介してもらった縁で埼玉栄の松島監督にもお世話になっていたから、対戦した時は感慨深いものがあった。第2戦の桐陽高校の吉岡先生は「ザ体育教師」「ビンバシ系」という感じで第1印象がとても怖かった。本当はとても楽しい人だと知ったのは数週間後の富士ワイズメンズカップという招待大会の夜だった。吉岡先生とは今も楽しい付き合いをさせてもらっている。第3戦で戦った鳳凰高校は圧倒的に強く完敗して、結局この大会で優勝した。こんなチームに勝てる日は来ないと思った。

〈ライバル大商と全国準優勝〉

大商学園とはずっとライバルだった。それは本当にうれしいことだった。成長するためにはライバルが必要だからだ。あそこだけには負けたくないダービーマッチこそ一番盛り上がる。2011年なでしこジャパンが世界制覇を成し遂げた年に選手権で頂点まであと一歩に迫った。絶頂期の常盤木には勝てなかったが良い経験をした。しかし残念ながら全国トップを維持できてはいない。その後は大商学園の方が強くなっているし、大阪学芸や追手門が抜かしにかかっている。大阪偕成やリベルテ、桜宮も足音が聞こえている。

100号で皇后杯出場を伝えられたのはうれしい。厳しい時代に突入したがこのニュースもチームもこれからも続けないといけなと思う。(監督天野泰男)